

「介護とは何か -生活を整えていく実践-」の活用方法

一般社団法人 FUKUSHI FOR CONVIVIALITY

1 動画制作の背景

2020年、我が国の高齢者人口は3617万人と過去最多、総人口に占める割合は28.7%と過去最高になりました。そのうち100歳以上が実に7万人を超えます。「介護」が社会のインフラとされて久しいなか、超高齢社会の次の社会“多死社会”の「介護」を早急に整えることが目下の課題でもあります。「介護」の体制を整えるためには、新たな介護人材の確保という視点に加えて、現在働いている介護人材が、介護の仕事の楽しさ、奥深さに気づき、介護の現場で長く働き続けることができる環境づくりが重要です。

この動画は、介護事業者が忙殺される日常から一旦距離を置き、「ノンフィクションの映像から学び、気づきを獲得する」というまったく新しい教材となっています。この生きた教材を下敷きに、介護実践への議論を深めるとともに、自分たちの振り返り、またはこれから介護に携わろうとしている人たちへの道標となることを強く願い、この動画を制作いたしました。

2 本動画の対象と活用目的

「介護とは何か -生活を整えていく実践-」の動画は、厚生労働省補助事業「令和2年度介護のしごと魅力発信等事業（介護事業者向け）」として、介護職員の離職防止や定着促進等、雇用管理の意識向上を行うことを目的として制作しています。

具体的には、介護事業者内での教育教材として活用することを想定し、教育実施者が本動画を用いて介護職員への研修を実施することで、主に大きく以下の2つの視点から学びと問いを深めることができます。

①入居者にとっての最善のケアとは何かを考えること

②入居者への最善のケアが継続してなされるためのマネジメントのあり方を考えること

また、これらを通じて、介護現場で働く職員が、介護という仕事の魅力（面白さ・奥深さ）に気づき、離職防止や定着促進につなげることを目指します。

3 本動画の構成

本動画は、5つの事例における介護職員の介護実践を6章に分けて収録しています。

	事例	内容	動画時間
第1章	ターミナルケアへの導入から看取りまでの事例（前編）	<p>①入居者の紹介 脳梗塞の後遺症により手足に麻痺が残る入居者について取り上げている。</p> <p>②ターミナル期に差し掛かる際の介護職員の思考過程 多職種と情報共有を行いながら、最善のケアを模索している。ターミナル期に差し掛かる際の介護職の思考過程について描写されている。</p> <p>③ターミナル期への導入と家族との協議 多職種で検討のうえ、ターミナル期と判断し、ご家族とともに今後の方針を話し合っている。</p>	3:08～
第2章	持てる力を活かす自立支援の事例	<p>①入居者の紹介 転倒により骨折し入院した入居者が退院して戻ってきたシーンが描かれている。</p> <p>②入居者へのアセスメント 生活レベルを可視化するツールを用いて、入居者のアセスメントを行い、持てる力を活用したケアプランを検討する。</p> <p>③生活動作の中で身体機能を維持する取り組み 施設で使う食材の下ごしらえを通じて身体機能の維持に努める。</p>	14:41～
第3章	暴言や大声を発する入居者への認知症ケアの事例	<p>①入居者の紹介 認知症の症状により声を荒げる入居者のシーンが描かれている。</p> <p>②入居者の症状の原因をチームで考え、試行する 他の職員と協力し、症状が現れる状況を考察する。それらの情報を通じて、解決策を試行する。</p>	22:20～
第4章	生活歴から導く自立支援の事例	<p>①入居者の紹介 病院での入院生活から家族の近くで過ごせる施設へと入居した。</p> <p>②生活歴から導く自立支援の取り組み ご本人の生活歴から、畑や花壇の手入れがその人の生きがいにつながると考え、一人ひとりに合わせた介護を実践している。</p>	31:38～
第5章	夫婦で入居する入居者の事例	<p>①入居者の紹介 夫婦で一緒に入居したケースについて紹介している。奥様のBMIが低下傾向にある状態。</p> <p>②より良いケアに向けたカンファレンスの実施 より良いケアに向けて、多職種で共同し、3つのケア方針を掲げて実践する。</p>	35:19～

		③人生の最後の過ごし方について家族との協議 人生の最後の過ごし方について職員と家族と協議し、施設で過ごすことが決まる。ご本人の希望により点滴を外す。	
第6章	ターミナルケアへの導入から看取りまでの事例（後編）	④食事を口にすることを拒む 食事を口にすることを拒み、BMIが低下する。 ⑤ターミナルにおける介護方針の決定 ご本人が好きなジャズを流したり、水分摂取の方法を工夫したりしながら最善のケアを続ける。 ⑥看取りとお別れ会の実施 看取りの場面と施設でのお別れ会を開催する。	45:21～

4 本動画の配布方法

本動画は、介護事業者団体を通じて介護事業者に視聴 URL のご案内をしています。また、インターネットにて動画を見ることができない介護事業者に対しては、DVD での配布も行っております（数に限りがありますのでご注意ください）。詳しくは、資料①「介護展開過程の教育用動画のご案内」をご確認ください。

5 本動画を活用した教育プログラム（例）

研修の目的：他施設の介護実践を動画で視聴し、自職場との比較や客観視により、新たな気づきや議論を深め合う。

（1）研修時間：2時間（15:00～17:00）での実施例

時間	内容	実施方法・目的
15:00- 15:10	挨拶・趣旨説明 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修における注意点などの説明を行う。 ・研修を通じて獲得してほしいことを事前に伝える。
15:10- 16:05	動画視聴 (55分)	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設の介護実践を知る。
16:05- 16:20	感想の共有 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・率直な感想を3人～4人のグループで共有する。 ※ここではお互いの感情を否定しない。
16:20- 16:50	グループ検討 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙「ケアの最善を議論する55の場面」と2色の付箋を配布する。 ・付箋に①良い取り組み ②改善が必要な点 を書き出す。3～4人のグループに分けて、模造紙やホワイトボードなどを使い、記入した付箋を読み上げながら貼ったのちに、良い点と改善点を話し合う。
16:50- 17:00	振り返り (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・1日を振り返り、感想をグループで共有する。 ※明日からの取り組みを具体的に決める

(2) 研修時間：4時間（13:00～17:00）での実施例

時間	内容	実施方法・目的
13:00- 13:05	挨拶 (5分)	・研修における注意点などの説明を行う。 ※内容に関する細かな説明はしない
13:05- 14:00	動画視聴 (55分)	・先入観なく本編を視聴する
14:00- 14:15	感想の共有 (15分)	・率直な感想を3人～4人のグループで共有する。 ※ここではお互いの感情を否定しない。
14:15- 14:25	趣旨説明 (10分)	・再視聴する趣旨の説明をする。 ※他施設との比較により、自職場の介護実践を振り返る
14:25- 14:35	休憩 (10分)	-
14:35- 15:55	動画の再視聴 (80分)	・視聴前に別紙「ケアの最善を議論する55の場面」と2色の付箋を配布する。 ・視聴しながら、①良い取り組み ②改善が必要な点 を付箋に記入する。 ※動画はケースごとに切り、その都度、振り返りを行い、付箋に記入する。
15:55- 16:05	休憩 (10分)	-
16:05- 16:35	グループ検討 (30分)	・模造紙やホワイトボードなどを使い、記入した付箋を読み上げながら貼る。貼ったのちに、良い点と改善点を話し合う。
16:35- 16:50	全体発表 (15分)	・前のワークを踏まえて、自職場で実践できることを共有し合う。 ※自職場の強みと弱みを認識し合う
16:50- 17:00	振り返り (10分)	・1日を振り返り、感想をグループで共有する。 ※明日からの取り組みを具体的に決める

6 動画視聴における注意点

本動画の視聴にあたっては、以下の点に留意してください。

- ・本動画は、動画教材として介護現場のありのままを知ってもらうこと、それに同意いただいた入居者ご本人と介護の仕事を尊重する観点から、可能な限り実名での表記や介護現場で起きている実態をそのまま映像に収めています。
- ・本動画は、資料④「動画制作における倫理的配慮について」に記載されている過程を経て制作したもので、内容の妥当性は、動画教材としての目的を鑑みた上で、複数の専門家の意見をもとに判断しています。